

## 西オーストラリア州の人口移動

桂 猛\*

### A Study of Western Australian Migration Patterns

Takeshi Katsura \*

#### Abstract

A large part of Australia is hot and dry, so the population is concentrated in urban areas, particularly on the east and west coasts.

Western Australia follows the same pattern as the rest of the country, being large in area, having many resources and with a low population concentrated around Perth.

Recently Western Australia has recorded higher annual population growth than the national average.

This article studies the demographic characteristics of people migrating to and from the state, examining factors such as economic opportunity, immigration from overseas, settlement patterns and lifestyle choices and also considers the impact of interstate and overseas migration on the population distribution of Western Australia.

#### キーワード

州間人口移動、年齢・性別構成の特徴、産業構造と発展過程

#### はじめに

オーストラリアは高温・乾燥地帯が大半を占めており、食糧・水の確保など自然・生活環境の制約から、内陸の居住者は総人口のわずか0.3%であり、大半は東西に大きく隔たった沿岸地域に居住している。また、どちらの地域も、各州の州都を初めとする都市部への人口集中がみられる。とりわけ、東から東南にかけての一角が多く、グレートディバイディング山脈と太平洋に挟まれた東沿岸部の細長い平地に、シドニー・メルボルン・ブリスベンなどの大都市を中心に国民の大半が居住している。

2001年の6州と2特別地域及び州都の人口は表1に示されるとおりである。19世紀は都市の規模も小さく、人口の地方分布も1911年で国民の43%と多かったが、この割合は年々低下し、1975年で14%となった。オーストラリア最大都市シドニーでは、国民の大半は、

\* かつら たけし : 大阪国際大学短期大学部教授 2004.12.10受理

アパートやテラスハウスなどのような建物・宅地を共有する居住形態より、土地付き一戸建て（平均6～7部屋、1000平方メートルの土地）を好む傾向があり、スプロール現象により都心から市街地が伸び、都市圏が大きく広がっている。

年齢別には現在少子高齢化傾向が進んでいる。15歳未満人口は、1911年に25%、2001年21%、2051年には14%を予測している。他方、65歳以上人口は、20世紀初頭は4%、2001年13%であり、2051年は26%の予測である。

西オーストラリア州（WA）は、面積252万9875平方キロメートル（日本の7倍であり、また西欧とほぼ同じ大きさでもある）人口190万6100人（この内、邦人口は約1,670人）の州で、オーストラリア全土の約3分の1を占める。州の南西部の沿岸は比較的雨量が多いが、大半が、乾燥した不毛の平地である。州人口の7割強に当たる139万7000人は、パースに居住している。西オーストラリア州の特徴は広大な面積と人口の希少性、そして人口分布の首都集中という点にある。州内には数多くの鉱山があり、世界のアルミニウム・鉄鋼産業の主要な鉱石供給地となっている。1829年から西オーストラリアへの入植の歴史が始まるが、約20年ほどの間は過酷な条件での生活を余儀なくされ、1840年代から本国から囚人が送られたが、1861年でも人口は1万5000人程度に過ぎなかった。1890年代にマーチソンで金が発見され、豊富な鉄鉱が現在の西オーストラリア州の発展の基礎となった。この州は資源に恵まれ、鉄鉱の他にも、ニッケル・チタン・希土類・金・ダイヤモンドなどの鉱産物を産する。近年、北西海岸沖に大規模な天然ガス油田が開発され、西オーストラリア州は、北アジアへの液化石油ガスの主要な輸出地となっている。

20世紀初頭まで380万人だったオーストラリアの人口は、自然増加（誕生数が死亡数を上回る）と海外純移民増加（入国移住者数が出国移住者数を上回る）により、2000年で1920万人に増加した。とりわけ、自然増加の要因が大きく、1901年から2001年に至る時期の人口増加約20万人のうち、3分の2を占めている。本稿では、とくに西オーストラリア州の人口動態について考察を試みたいと思う。

表1 オーストラリアの州別人口分布と州都人口

州・特別地域	人口（1000人単位）	州都	州都人口（1000人単位）
ニューサウスウェールズ	6,609.3（33.9%）	シドニー	4,154.7（33.4%）
ビクトリア	4,822.7（24.8%）	メルボルン	3,488.8（28.1%）
クイーンズランド	3,635.1（18.7%）	ブリスベン	1,653.4（13.3%）
南オーストラリア	1,514.9（7.8%）	アデレード	1,110.5（8.9%）
西オーストラリア	1,906.1（9.8%）	パース	1,397.0（11.2%）
タスマニア	472.9（2.4%）	ホバート	197.8（1.6%）
北部特別地域	200.0（1.0%）	ダーウィン	108.2（0.9%）
首都特別地域	321.7（1.7%）	キャンベラ	321.3（2.6%）
全国合計（a）	19,485.3（100%）	州都合計	12,431.7（100%）

（a）ジャービス湾沿岸地域、クリスマス島、ココス（キーリング）諸島を含む。

出典：オーストラリア連邦統計局「オーストラリア2003年年鑑」p.15、AGPS, Canberraより筆者加筆・修正。

## 西オーストラリア州の人口移動

### 西オーストラリア州における人口移動

西オーストラリア州の人口移動は、クイーンズランド州への北方向の流れとビクトリア州への南方向への流れが主である。1999年以降、西オーストラリア州からの流出人口が増加し、同時に流入人口の減少もみられたことから、純移住は毎年減少傾向を示している。しかし、西オーストラリア州人口の2003年における年間人口増加率は1.4%であるが、これはオーストラリアでクイーンズランド州(2.3%)に次ぐ2位の数字となっており、オーストラリアの平均伸び率を上回っている。州間人口移動は2,800人の純減であったが、海外純移民が18,000人の増加を示し、自然増加も12,600人となっている。州間人口移動は、経済情勢の変化、ライフスタイルの選択、海外移民の動向等の要因により、概して何れの州でも変動し易い傾向がある。以下、国内人口移動と海外移民の状況について、触れてみたい。

#### 1 国内人口移動

州間純移動の規模は変動が大きく、1986年の9,400人をピークとして2001年には4,400人のマイナスとなった。純減の傾向は1999年から続いている。西オーストラリア州の流出人口はこの16年間着実に増加し、2003年に33,700人に達した。流出先別内訳は、クイーンズランド州27%、ビクトリア州23%、ニューサウスウェールズ州23%、タスマニア州5%、首都特別地域(the Australian Capital Territory)3%となっている。他方、流入人口は増減を繰り返しており、1997年には34,700人に達した。2003年には、流入移住者の出身地は、ニューサウスウェールズ州27%、ビクトリア州24%、クイーンズランド州22%、タスマニア州5%、首都特別地域3%となっており、1989年以来ニューサウスウェールズ州からの流入が最も多くなっている。年齢別・性別構成であるが、1998年以降の流出入者の内、25~64歳人口56%、0~14歳人口21%、15~24歳人口21%となっている。性別構成については、男女比率は1987年46%・54%、2003年が49%・51%となっている。

西オーストラリア州の人口流出入は、他の州と同様、雇用情勢と大きな関わりを有している。1996年から2001年に至る時期において、雇用者の流入が流入者総数の58%から56%に、非雇用者は13%から11%にそれぞれ低下している。

1996年においては、金融・保険・文化・レジャー産業以外は全産業で、西オーストラリアからの純移動が伸びた。しかし、2001年は逆に大半の全産業で純移動はマイナスとなった。しかし、鉱業は1996年以来顕著な減少傾向を示していたが、1996年は大幅増加となり、また、建設業、健康産業、地域サービスの各部門は少し増加した。1996年から2001年に至る時期において、純移動の変化は不動産・ビジネスサービス、製造業、政府機関・政府関連機関において見られた。

職業については、1996年は全職業で純増加を示したが、2001年は逆に輸送・専門事務・サービス関係以外の職業は純減であった。最も減少したのは専門職で、1996年に370人の純増であったのが、2001年は470人の純減となった。次いで減少したのは、商業関連で、1996年の470人の純増、2001年には110人の純減となった。

#### 2 海外移民

西オーストラリア州への海外純移民は過去20年間で1984年の4,300人(オーストラリア

全体の純移民の9%)から1988年の20,800人(同14%)の間を推移した後、2002年に17,300人に落ちた。移民流入は、1984年の16,000人から2001年36,100人、移民流出は1986年の9,400人から2002年は21,300人となった。1996年、2001年共に、西オーストラリア州に流入した海外移民は以前の5年間と同様、製造業、不動産・ビジネスサービス部門に雇用された。1996年から2001年の間に、不動産・ビジネスサービス部門は39%の最大増を示した。逆に、文化・レジャー・サービス分野は12%減となった。職業については、1996年、2001年共に、以前の5年間と同様、専門職で雇用され、同時期で30%と最大の増加を見た。逆に、商業関係者や専門事務・サービス関係は夫々7%、6%の減少となった。海外移民の移住形態としては、2000年6月30日までの1年間で11,500人が西オーストラリア州に移住したが、この内8,400人(73%)は移住計画(Migration program)により移住した。内訳は、6,500人(57%)が熟練移民(マネージャー・経営者や専門職が主)、1,900人(16%)が家族永住計画(family migration program)、850人(7%)が難民救助計画(humanitarian program)であった。移住計画によらない移住は20%であり、この内2,200人(96%)はニュージーランド出身である。

西オーストラリア州は、人口純減にも拘わらず、州間人口移動により人口増加を示してきた。純減は、自然増や海外移入民による埋め合わせを超えていた。1996年では西オーストラリアはほとんど全ての産業と職業で純増を見てきた。この傾向は2001年に逆転し、西オーストラリア州からの人口流出はほとんどの産業や職業に拡大した。しかし、これらの流出は、海外移民の流入とくに流出が最大であったマネージャーと専門職に流入によって相殺された。

#### 西オーストラリア州における各地区の人口動態

西オーストラリア州の年齢別・性別構成は、歴史的要因や出生・死亡・移住の影響等により形成されてきた。例えば、世界恐慌と第2次世界大戦の間の低出生率・高死亡率と戦後の出生増加、ベビーブームが、今日の45~54歳人口比を高めている。西オーストラリア州の様々な地域人口プロフィールは、種々の社会経済的、地理的状況、産業・雇用・文化の多様性、家計状況、ライフスタイル志向等を反映している。西オーストラリア州はオーストラリアの州の中でも、州都の居住人口が最も高く、人口分布が大きく偏っている。20世紀において、西オーストラリア州は、オーストラリア全体と同様、人口増加、年齢別・性別構成、出生・死亡率低下、平均寿命増の傾向が見られた。

オーストラリアの総人口は1901年の3,788,100人から2001年には19,485,300人になった(年間平均1.2%の伸び率)が、同時期に西オーストラリア州人口は188,600人から1,906,100人へと2倍のスピードで増加(年間平均1.5%の伸び率)した。この結果、西オーストラリア州人口の対オーストラリア総人口比は、5.0%から9.8%に上昇した。

年齢別・性別構成については、オーストラリア全体では、従来、男性が女性を数において上回る傾向があったが、この100年間でその状態が逆転している。すなわち、1901年の性別比率(女性100人に対する男性数の比率)は110.0であったが、2001年は98.3に下落した。西オーストラリア州の変化は更に大きい。1901年と2001年の性別比率はほぼ同じであ

## 西オーストラリア州の人口移動

るが、以前は155.7であった。この10年で西オーストラリア州の性別比率は101.2から100.2（全国は99.4から98.3へと変化）となった。

人口の中間年齢（人口を2分する年齢）は、1901年から2001年に至る時期に全国では22.6歳から35.7歳へと上昇したが、西オーストラリア州は同時期に31.5歳から34.8歳になった。これは、平均寿命の伸びや出生率の低下と関わりがある。第2次世界大戦後のベビーブーム世代は経済活動、ヘルスケアの需要、社会の構成など多様な影響を及ぼしてきている。年齢別・性別構成は、西オーストラリア州全体は、全国と同様の傾向を示すが、各地域では夫々の特徴を有している。各地域別の人口分布は表2に示されるとおりである。以下、順を追って、各地域の状況 政府の公式統計のために設定された統計分区分状況 について、主としてオーストラリア連邦統計局の統計資料に依拠しつつ、見ていくことにする。

### 1 パース地区（Perth SD）

近代都市パースはダーリング山脈を背後にし、インド洋に面した川幅1キロメートルにも及ぶスワン川の河口付近に位置している。既述のとおり、西オーストラリア州の州都であるパースへの人口の集中度は極めて高く、パース人口の対州人口比は、1991年から2001年にかけて72.7%から73.3%へと上昇した。オーストラリアの州都の中でも人口集中度は最も高くなっており、パース都市圏の他地域への影響は大である。オーストラリアにおいて、主要都市への人口集中の傾向は顕著に見られるが、とりわけ、西オーストラリア州の人口集中度は高い傾向にある。<sup>1</sup>パース地区の人口分布は西オーストラリア州全体のそれと類似している。郊外の高級住宅街と白い砂浜に囲まれたパース地区は豊かな東部への玄関口としての魅力を有している。

1991年から2001年の間の人口伸び率については、州の伸び率より高い年平均1.6%であり、1,397,000人となった。年齢別・性別構成については、同時期に中間年齢が32.0歳から35.0歳（州は31.5歳から34.8%）に上昇した。性別比率は、2001年で州が106.9であるのに対してパース地区は97.9であり、州内では唯一女性数が男性数を上回っている。0～14歳人口では、男性数が上回るが、65歳以上人口では女性数が多くなっている。就労年齢層である15～64歳人口では、男女ほぼ同数となる。1991年以来、平均寿命の伸びに伴って年配層での女性の数がより多くなった。

1991年以来、45歳以上人口の構成比は、ベビーブーマー（45歳～54歳）の影響により、29.1%から34.6%へと上昇したが、45歳未満人口比は70.9%から65.4%へと低下した。パース地区には、37区域（SLA、Statistical Local Areas）がある。各区域の人口は、パース（Perth Inner）の790人からジュンダラップ・サウス（Joondalup - South）108,300人まで様々である。パース居住者の性別構成は201.5、港湾・工業地区フリーマントル（Fremantle-Inner）は820人の人口で性別構成は156.4であった。性別構成の低い地域は、ペパーミント・グローブ（Peppermint Grove）の74.4、モスマン・パーク（Mosman Park）87.8となっている。パース地区で最も低い中間年齢を持つ区域は、ワンネルー・ノースウェストとサウス（Warrneroo-North-West, Warrneroo-South）、スワン（Swan）、クウィナナ（Kwinana）、ゴスネルズ（Gosnells）、ジュンダラップ・ノース（Joondalup-North）だ

表2 西オーストラリア州の人口分布

統計区分 (division)	1991年 (構成比)	2001年 (構成比)	年平均増加率
Perth	1,188,762 (72.7%)	1,397,048 (73.3%)	1.6%
South West	145,730 (8.9%)	194,907 (10.2%)	3.0%
Lower Great Southern	48,851 (3.0%)	53,426 (2.8%)	0.9%
Upper Great Southern	21,195 (1.3%)	18,737 (1.0%)	- 1.2%
Midlands	1,104 (0.06%)	53,670 (2.8%)	0.5%
South Eastern	52,622 (3.2%)	55,255 (2.9%)	0.5%
Central	57,878 (3.5%)	60,695 (3.2%)	0.5%
Pilbara	46,550 (2.9%)	39,676 (2.1%)	- 1.6%
Kimberley	23,375 (1.4%)	32,700 (1.7%)	3.4%
Western Australia (計)	1,636,067 (100%)	1,906,144 (100%)	1.5%

出典：Western Australian Statistical Indicators, p 3. より筆者加筆・修正。

が、全てパース周辺の新興都市である。これらの諸都市の人口は、パース地区人口の20%に当たり、1991年から2001年に至る時期のパース地区の人口増加の半分に当たる。これらの区域は、夫々中間年齢は32.5歳か、それ以下であり、高齢者層の人口比率が低く、子供の比率が高く、若い家族の高い集中が見られる。この中には、余裕が出来て家を求める若い家族が含まれている。逆に、クレアモント(Claremont)、フリーマントル(Fremantle-Inner)、コテスロー(Cottesloe)、ネドラズ(Nedlands)は、中間年齢が38.9歳から40.5歳で、子供の比率が低く、高齢者の比率が高い。

## 2 サウスウェスト地区 (South West SD)

この地区の面積は26,661平方キロメートルで、西オーストラリア州の1.1%しかないが、人口は、西オーストラリア州でパース地区に次いで2番目に多く、州人口の10.2%を占めており、さらに人口密度も西オーストラリア州の中でパース地区に次いで高い地区である。広大な森林地帯と起伏に富んだ海岸線を持つサウスウェスト地区には、地区で唯一の都市であるバンバリー(Bunbury)やマンジュラー(Mandurah)、マンジマップ(Manjimup)等の諸村落がある。この地区は、豊富な資源、比較的温暖な気候に恵まれた地域であり、開拓道路・蒸気鉄道・沿岸及び外洋航運(帆船から蒸気船)等の交通機関の発達初期の頃よりみられ、西オーストラリアの開発経営も1830年代から開始された地域である。<sup>2</sup>古くから発達した農牧業<sup>3</sup>を初め、後に林業、観光産業など種々の産業が加わり、西オーストラリア州では例外的に、多様な産業が展開している。<sup>4</sup>1991年から2001年にかけて、サウスウェスト地区は年平均3.0%と西オーストラリア州の全地区の中で2番目の速度で人口増加が見られ、194,900人となった。中間年齢は、パース地区が32.0歳から35.0歳に上昇したのに対して、サウスウェスト地区は32.7歳から36.9歳へとパース地区より早いテンポで上昇した。パース地区と比較してのこの地区の最大の特徴は、20歳～29歳人口の構成比が低いことである。すなわち、2001年のパース地区のこの年齢層の比率が14.6%であったのに対し、サウスウェスト地区は11.1%であった。また、パース地区と同様、ベビーブーマーの比率は高い。1991年から2001年の間にサウスウェスト地区は大きな人口増加を見た。増

## 西オーストラリア州の人口移動

加は、マンジュラーとパンバリーが主で、特徴的な人口構成を示していた。マンジュラーとマレー(Murray)の人口増加には、ライフスタイルにより移動した高齢者も含まれている。サウスウェスト地区の人口増加の40%以上はこれらの区域で、夫々の中間年齢は40.0歳、41.1歳である。マレーは西オーストラリア州で2番目に高い中間年齢となっている。パンバリーの中間年齢は34.9歳で、サウスウェスト地区の36.9歳より低くなっている。パンバリーの周辺地域は、30.9歳~33.9歳と、より低い状況である。

### 3 ローワー・グレート・サザン地区(Lower Great Southern SD)

この地区は、州の最南端に位置し、スターリング山脈が走っている。アルバニー(Albany)は、南部最大の港町である。1826年に西オーストラリアでは最も早く白人が入植を開始し、捕鯨地区として発展を遂げた歴史がある。現在は、この地区は農業や観光産業などの産業があり、パース地区より人口は高齢である。人口増加の速度は1991年から2001年にかけて年平均0.9%と比較的ゆっくりしており、53,400人となった。年齢別・性別構成であるが、1991年に中間年齢が男性32.2歳、女性32.7歳であったのが、2001年には夫々36.2歳、37.7歳となった。2001年の女性の中間年齢は、西オーストラリア州で最も高い数値となっている。性別比率も103.7から102.6へと減少した。この地区の年齢別・性別構成にはそれ程明らかな特徴は見られないが、20歳~29歳人口の構成比率が低下している。

### 4 アッパー・グレート・サザン地区(Upper Great Southern SD)

小麦ベルト地帯であるこの地域は、農業活動が主であり、人口が18,700人と最も少なく、州人口の1.0%しか占めていない。1991年から2001年にかけて年平均1.2%の速度で、2,500人減少した。西オーストラリア州の中で減少した2地区の1つである。中間年齢は同時期に、男性が30.7歳から36.4歳、女性が31.0歳から36.6歳に上昇した。西オーストラリア州で2番目の高齢者地区であり、特に男性に関しては最も高い数値である。性別構成は109.7から106.5になり、70歳未満の全ての年齢層で男性数が女性数を上回っている。この地区の年齢別構成の変化の最大の特徴は、45歳未満人口の減少(3,600人の減少)45歳以上人口は逆に1,200人の増加をみた。

### 5 ミッドランド地区(Midlands SD)

この地区は、パース近郊の都市部であるチタリン(Chittering)やトゥーディエイ(Toodyay)からマキンパディン(Mukinbudin)の内陸の小麦ベルト地域にかけて広がっている。1991年から2001年にかけて2,600人ずつ増加し、53,700人になった。年平均増加率は0.5%である。西オーストラリア州全体では、人口増加がかなり見られたが、ミッドランド地区は最小の伸びに留まった。中間年齢は1991年の31.5歳から2001年には37.1歳に上昇し、西オーストラリア州で1番の高齢地区となった。この中間年齢の伸び率は、アッパー・グレート・サザン地区に次ぐ2番目の伸び率であった。性別構成は同時期に110.3から109.0となった。75歳未満人口では、女性より男性が少し多い。年齢分布の明白な特徴は、35歳未満人口比の減少と、40歳以上人口比の増加である。西オーストラリア州やパース地区も同様の傾向を示している。ミッドランドの人口増加は、29全区域の内、トゥーディエイ、ジンジン(Gingin)、チタリン、ヨーク(York)、ダンクレアラゲン(Danclaragan)

ダルワリニュー(Dalwallinu)、バーバリー(Beverley)、ノーサム(Northern)の8区域に限られており、2001年は地区の人口の45%以上になる。ミッドランド地区全体としては1991年から2001年にかけて5,800人増加したが、トゥーディエイとジンジンは計2,800人の増加が見られた。中間年齢は8区域の内、4区域は40歳以上であり、1つだけが32.8歳(ミッドランド地区全体では37.1歳)であった。バーバリーは43.3歳と西オーストラリア州の全区域の中で最も高かった。ノーサムはミッドランドで最大の区域で他の諸区域と同様パースに近いが、人口は520人減少した。

#### 6 サウス・イースタン地区(South Eastern SD)

この地区は、レーヴンズソープ(Ravensthorpe)、エスペランス(Esperance)、ゴールドラッシュの町で西オーストラリア州の内陸では最大の町カルグールリー・ボールド(Kalgoorlie/Boulder)等の鉱山中心地から人里離れた内陸のNgaanyatjarrakeへと拡大した。鉱山業はこの地区の重要産業である。

オーストラリアのゴールドラッシュは、1851年のニューサウスウェールズ州バサースト近郊における金の大量発見に始まり、その後ビクトリア州、クイーンズランド州に拡大したが、西オーストラリア州では、1880年代から金が発見され始めた。これにより、西オーストラリア州は1890年代に急速な発展を遂げていった。1892年にはカルグールリー、1893年にはクールガーディー(Coolgarlie)で金が発見された。カルグールリーは、とりわけ「世界で最も恵まれた採金地」として著名な採金地であり、アイルランド人パディ・ハナン(Paddy Hannan)、トム・フラナガン(Tom Flanagan)、ダニエル・シェイ(Daniel Sheal)によって金が発見されている。カルグールリーに続いてボールドが成長し、2つの町は共に発展を遂げた。1970年代からはニッケル、1980年代からはウランウムも生産されるに至り、1989年にはカルグールリー・ボールド市が誕生した。

サウスイースタン地区の人口は、1991年から2001年にかけて、2,600人増加し、55,300人となった。年間平均増加率は0.5%である。この地区は地元生まれの人々の構成比が比較的高く、鉱山業における雇用者が多い。中間年齢は1991年の27.8歳が2001年に31.0歳となったが、なお西オーストラリア州では3番目に若い数値である。性別構成は、同時期に119.5から114.5と低下した。75歳未満は男性数が女性数を上回っている。地元生まれの人々に見られる高い出生率・死亡率の影響もあり、また、15歳~64歳人口の人口構成比率の高さ、高い性別構成、65歳以上人口構成の低さは、鉱山業の雇用者の比率が高いことによる。

全体的には上に記したとおりの傾向であるが、地域によりばらつきが見られる。Ngaanyatjarrakuは中間年齢が26.2歳と西オーストラリア州で2番目に低く、性別構成比は98.2となっている。ほとんどが、土着の人である。レーヴンズソープだけが、州平均の34.8歳を上回る36.8歳となっている。ラバートン(Laverton)など性別構成の高い諸区域は、鉱山業に占められてきた。カルグールリー・ボールド(Kalgoorlie/Boulder-Part A)の諸区域は、サウス・イースタン地区の人口の4分の3以上を占めている。2つの村の内、エスペランスの中間年齢は、カルグールリー・ボールド(29.9歳)より高く、34.4歳で、性別比率も104.3である。サウス・イースタン地区は、65歳以上人口比は極く小さい。比が最

## 西オーストラリア州の人口移動

も高いのはエスペランスで9.9%、クールガーディーは最も低く、2.5%となっている。

### 7 セントラル地区 (Central SD)

この地区を構成する区域は、海岸沿いの都市ジェラルトン(Geraldton)や深い内陸のウィルーナ(Wiluna)から、小麦ベルト地帯のカーナマー(Carnamah)やペレンジョリ(Perenjori)まで多様である。牧畜・農業・鉱業・漁業などの産業が展開している。1991年から2001年の時期に2,800人増加して、人口は60,700人になった。年間平均0.5%の伸び率である。西オーストラリア州の全地区の中で、セントラル地区は、ミッドランド地区やサウス・イースタン地区に近い数値ではあるが、最も低い伸び率となっている。同時期に、性別比率は112.5から108.2となり、80歳未満は全ての5年間隔グループで男性数が女性数を上回っている。中間年齢は29.4歳から34.0歳となった。セントラル地区は22区域から成るが、ジェラルトンに最も近い海岸沿いの区域 - グリーノー(Greenough-Part A, Greenough-Part B, Irwin, チャップマン(Chapman), ノーサンプトン(Northampton)-で人口増加があった。これらの諸区域は5,900人増えて、この地区全体の2倍以上の人口増加を示した。3,800人という最も高い増加は、ジェラルトン近郊都市のグリーノー村の一部(Greenough-Part A)に見られた。Part-Aの中間年齢は31.9歳で、ジェラルトンの34.1歳より低い。ジェラルトン周辺の地方の諸区域は逆に36.9歳から39.3歳へとジェラルトンより高齢化の傾向が見られる。ジェラルトンは性別構成が97.5とこの地区で唯一100以下の区域である。周辺諸区域の増加にも関わらずジェラルトン市自体は1,000人減少した。ジェラルトン周辺地域は人口増加の傾向にあるが、諸区域全体では、実質的に減少している。この期間に人口が増加した他の諸区域は、ウィルーナ、シャーク湾(Shark Bay)、アッパーガスコン(Upper Gascoyne)、マーチソン(Murchison)であり、計780人増えた。この地区の性別構成は州で最高である。ヤルゲー(Yalgoo)の諸区域は244.8、ウィルーナは208.7で、これは伝統的に男性中心の鉱業の影響である。中間年齢は、マーチソンの26.8歳からサンドストーン(Sandstone)の40.0歳まで多様である。これらは、160人、140人と州で最も人口が少数の諸区域でもある。

### 8 ピルバラ地区 (Pilbara SD)

雄大で自然の魅力に溢れ、野生生物も多いピルバラ地区は、アシュバートン(Ashburton)、イースト・ピルバラ(East Pilbara)、ポートヘッドランド(Port Hedland)、ローバーン(Roebourne)の4区域で構成される。地元生まれの人々の比率が高いのが特徴である。オーストラリア政府は従来、鉄鉱石輸出を国内需要への対応を優先させるために禁止していたが、ピルバラ地区での鉄鉱石資源の発見により解禁し、日本の高度経済成長に伴う鉄鉱石需要の増大と相俟って相互依存関係を高めてきた歴史がある。<sup>5</sup>ピルバラ地区の経済は、鉱業と密接に結び付いており、地域の人口変化はこの産業の状況変化を反映する。ピルバラ地区は西オーストラリア州の州都パースからも距離が遠く、人口も極めて少ない状況であったが、鉄鉱石の探掘と輸出増大とともに、人口も増加した。<sup>6</sup>1991年から2001年にかけて、ピルバラ地区は6,900人減少して39,700人となった。年平均1.6%の減少で、西オーストラリア州の全地区の中で最大の減少である。ピルバラ地区の年齢別性別構成は、鉱業の影響を反映しており、地元生まれの人々の人口構成比が最大である。特徴

的な構成となっており、65歳以上人口が極めて少なく、15歳～24歳人口も少ない。また、15歳～64歳の就業年齢層は主に男性で占められ、性別比率は最も高く121.4となっている。他の地区と同様、この10年性別構成に変化はほとんど見られない。80歳未満では男性数が女性数より多く、30歳～59歳層ではこの差が最大となる。ビルバラ地区は州の全地区の中で2番目に若い中間年齢となっている。1991年で男性28.6歳、女性25.9歳であったのが、2001年では夫々30.7歳、28.8歳となった。全体の中間年齢の伸びが2.4歳であるが、これは州の全地区の中でも最小の伸びである。パース地区は3.0歳の伸びで、アッパー・グレート・サザン地区の伸び5.7歳の半分である。ビルバラ地区の4つの区域の中で、ポートヘッドランドだけが10年間で160人ずつ増え続けた。イースト・ビルバラ、アシュバートン、ローバーンは夫々4,200人、1,900人、860人の減少である。これら4区域は全て、低い中間年齢(1991年から2001年にかけて29.5歳から30.2歳へ)、高い性別構成(118.9から128.6へ)、15歳～64歳の高い人口構成比(69.7%から71.0%)という特徴を持った。65歳以上人口はビルバラ地区の諸区域は州の中で最も低い人口比となっており、アシュバートンの1.6%からポートヘッドランドの2.4%までの間である。ちなみに、パース人口の11.2%は65歳以上である。

#### 9 キンバリー地区(Kimberley SD)

キンバリー地区は、真珠養殖とビーチリゾートの街ブルーム(Broome)、ダービー(Derby)、キンバリー(Kimberley)、ホールズクリーク(Halls Creek)、ウィンダム・イースト・キンバリー(Wyndham-East Kimberley)の4区域からなる。ブルームはキンバリーへの南玄関口となっており、1880年頃より南洋真珠採りの港として発展し、日本人パールダイバーも多数到来した真珠の町として著名である。また、ダービーは牧畜と採掘の中心地として開発された町である。キンバリー地区で代表的な街の一つで西の玄関口となっている。ウィンダムはケンブリッジ湾(Cambridge Gulf)に面しており、1886年に最初の開拓が始まり、キンバリー金鉱への補給のための港として、また牧畜業の拠点として作られたオールドタウンである。現在キンバリー地区の経済は、観光産業・牧畜業・農業・鉱業に依存している。地区の中で最速の年間平均3.4%増加した。同時期のパース地区の年平均増加率1.6%の2倍以上の伸びである。この地区の人口は2001年で32,700人と、西オーストラリア州で2番目に少ない。この地区の年齢別構成は、地元生まれの人々の大きな構成率を反映している。地元生まれの人々に見られる高い出生・死亡率により、中間年齢は西オーストラリア州の全地区の中で最も低くなっている。キンバリー地区の中間年齢は1991年の25.6歳から2001年には28.1歳となり、2001年のパース地区の35歳より低い。ビルバラ地区は例外として、キンバリー地区は1991年から2001年に至る時期に州の全地区の中で最小の伸びであった。キンバリー地区の年齢構成の特徴は、ビルバラ地区同様、65歳以上人口の比率が小さいことである。すなわち、2001年における65歳以上層の構成比率は、パース地区が11.2%であるのに対して、キンバリー地区は4.0%となっている。また、性別構成は同時期に115.9から114.7と低下しつつも、高い比率を維持し続けた。80歳未満は男性数が女性数を上回っていた。キンバリー地区の4つの区域は、全て州平均と比較して、110.6から122.0と高い性別比率と低い中間年齢を示した。4つの区域の間に、州で最も低い中

## 西オーストラリア州の人口移動

間年齢のホールズクリークや、州で3番目に低い26.6歳のダービー・ウェスト・キンバリー(Derby-West Kimberley)などばらつきがある。州の中間年齢と比較すればまだ低い。ウィンダム・イースト・キンバリー(Wyndham-East Kimberley)やブルームの諸区域は夫々29.1歳、29.6歳とより高くなっている。ブルーム地域はこの地区で最も高い中間年齢(地区の人口の40%以上)を示したが、これは地区の人口増加の半分である。ブルーム地域の増加は、強い観光産業と地域に見られる魅力的なライフスタイルが要因の一部となっている。

### (注)

- 1 遠山嘉博「西オーストラリアの地域開発と日本のインパクト」、『オーストラリア研究紀要』第13号、1988年、p 7
- 2 宇田正「South-West 地域開発の進展とinfra-structure 整備の諸段階 交通史の一素描」、『オーストラリア研究紀要』第13号、1988年、p 124
- 3 オーストラリア南西部の農牧業発展については、宇田正、同上論文、金田章裕「オーストラリア南西地区の農牧業と中心集落」、『オーストラリア研究紀要』第13号、1988年、等を参看。
- 4 遠山、同上論文 p 16
- 5 遠山、同上論文 p 10
- 6 遠山、同上論文 p 13

### (参考文献)

- 1) Australian Bureau of Statistics, Western Australian Statistical Indicators : 2002 Feature Article- Western Australia's Age and Sex Distribution , 2002.
- 2) Australian Bureau of Statistics, 1367.5 Year Book Australia: Population Feature Article-The impact of migration on Western Australia's population, 2004.
- 3) 石川栄吉、越智道雄、小林泉、百々祐利子監修「オセアニアを知る事典」平凡社、1990年
- 4) 宇田正「South-West 地域開発の進展とinfra-structure整備の諸段階 交通史の一素描」、『オーストラリア研究紀要』第13号、1988年。
- 5) 金田章裕「オーストラリア南西地区の農牧業と中心集落」、『オーストラリア研究紀要』第13号、1988年。
- 6) 遠山嘉博「西オーストラリアの地域開発と日本のインパクト」、『オーストラリア研究紀要』第13号、1988年。